

暮らしの コーディネート ～第 33 回

今月のKEYWORD

『シェアリングエコノミー』

sharing economy。直訳すると「共有経済」。個人の資産やスキル、時間などを他者に提供したり共有したりして収益を得る方法。民泊やフリマアプリが代表的ですが、タクシー業界で始まったライドシェアも注目されています。定額料金を払って継続的な利用を想定するサブスクリプションとは異なり、必要なものを必要な分だけ利用できる点がメリットです。



注目される 理由とは？

今なぜシェアリングエコノミーが注目されているのか？その理由に、人々の価値観の変化が挙げられます。エコロジーやサステナビリティへの意識が高まり、ミニマムな暮らしを好むようになって、所有しなくても必要なときに使用でき

気軽にスキルを活かせる住まい

ればいいという考えが広がってきたことがその要因の一つです。

シェアリングエコノミーは、もとも経済発展に貢献する新たなビジネスモデルで、総務省やデジタル庁、財務省など各省庁も推進しているもの。サービス内容は「モノ」「お金」「空間」「スキル」「移動」の5つに分類されます。中でも知識や経験など人の持つスキルをシェアするサービスが注目を集め、「モノによる豊かさ」から「心の豊かさ」を重んじる傾向が強まってきていることにもつながっています。

自宅を

有効活用する

シェアリングエコノミーはビジネスだけでなく、意外と私たちの身近

なところでも広がっています。使っていないモノをマーケットに出品したり、スキルの提供や場所を貸したり借りたりするなど、形態もさまざまです。そして、こうした広がりとともに意識が向きやすいのがリフォーム。アクセサリーのワークショップや料理教室を開設したい、ヨガの様子を配信するYouTubeスタジオを設けたい、古民家を改良して民泊を始めたい…。住まいの一角を子ども食堂や学童保育のスペースにリフォームして地域に貢献したいといった方も見受けられます。

使わなくなった和室や独立したお子様の部屋など、未利用空間をシェアリングエコノミーの新たな活用を考えてみるのはどうですか。